

第32回 **PFF** **ぴあフィルムフェスティバル**
PIA FILM FESTIVAL

2010年7月16日[金]—30日[金] 前夜祭:7月15日[木]

東京国立近代美術館フィルムセンター 大ホール(京橋)

主催: PFFパートナーズ **ぴあ TBS** / **UNI JAPAN** 財団法人 日本映像国際振興協会

共催: **東京国立近代美術館フィルムセンター** / PFFパートナーズ **ホリプロ**

後援: 文化庁 / 社団法人 日本映画製作者連盟 / NPO法人 映像産業振興機構(VIPO) / 協同組合 日本映画監督協会

特別協賛: **SEGA-SAMMY GROUP** 協賛: (財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構 **Post-it** 協力: 早稲田大学

<http://pff.jp/>

「PFFアワード2010」

「若松孝二特集」

「日本映画新作プレミア」

「イ・サンウ特集」

「ジョン・カサヴェテス特集」

「短編スペシャル」

「PFFスカラシップ」

すごいインディペンデント映画きてます

PFF Award 2010
Competition

Wakamatsu
Cassavetes
Lee Sang-Woo
Invited Works

Japanese Movie Premiere
Short Film Special

CoFesta

『コンペティション部門』 PFFアワード2010

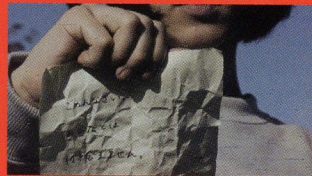
527作品から厳選された16作品を上映。
上映後、来場監督とのトークを予定しています。

表彰式&グランプリ作品上映
7月30日[金]16:30-
グランプリ(副賞100万円)、準グランプリ(副賞20万円)、
審査員特別賞(副賞10万円/3作品)、
びあ賞、TBS賞、ホリプロ賞(各賞とも豪華副賞)

A 7月17日[土]11:00- / 27日[火]18:45-

『ポスト・ガール』

監督: 北川 仁(27歳) 49分/カラー
窃盗、器物破損、手紙偽造。次々に常軌を逸した行動に走る女の復讐劇が生み出すブラックな笑い。辻褄合わせや整合性といった概念を平然とやり過ごし、潔く新たな地平を目指す、奇想天外で型破りな怪物が誕生した。



『賽ヲナゲロ』

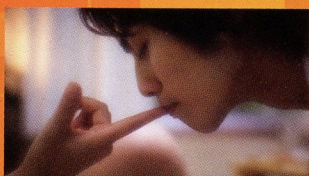
監督: 天野千尋(27歳) 66分/カラー
母親からネガティブ思考の洗脳を受けてきた道子は、普通の女の子の幸せを手に入れるため、自分を変えようと踏み出す。憧れと失望の果てにある種の開き直りに達する道子と母親の変化を、洞察力豊かに描き出す。



B 7月17日[土]13:45- / 29日[木]16:00-

『イチゴジャム』

監督: 庭月野議啓(28歳) 32分/カラー
片思いの彼のため、丁寧に煮詰める絶品ジャム。艶めかしい深紅のツヤを輝かせるジャムは、女子大生の官能的妄想やせつない乙女心を代弁するように、小道具の粋をはるかに超え、どろどろにセクシーに溶けていく。



『真っ赤な嘘』

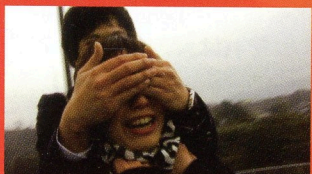
監督: 小林 岳(23歳) 72分/カラー
就活のために上京し寿司屋でバイトする山田君。電話番号もできない不器用な彼は、美人OL涼子にあこがれるが…紋切型サラリーマンを崇拜し、田舎コンプレックスで他者を攻撃。独善的で嫌悪感あふれる強烈キャラクターを活写する。



E 7月18日[日]11:00- / 28日[水]18:45-

『キミ/ハミング/コーヒー』

監督: 勝又 悠(28歳) 18分/カラー
友達以上恋人未満のような関係の高校生カップルの姿を追ったささやかな一夜の物語。男女二人の他愛のないふれ合い、会話、その積み重ねの果てに思春期の揺れる心を優しく浮かび上がらせた良質の恋愛ドラマ。



『青春墓場～明日と一緒に歩くのだ～』

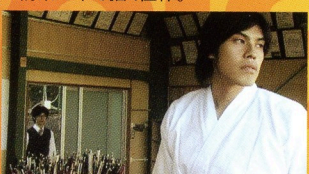
監督: 奥田庸介(23歳) 75分/カラー
かつて恋人同士だった絶望した女と絶望した男の数年ぶりの再会。それは微かな希望を生むが、その希望は重さのあまり、さらに増幅した絶望を生み出す。絶望という恐怖を通り過ぎた後には、もう笑いしか残されていない。



F 7月18日[日]13:30- / 29日[木]13:15-

『雲と空』

監督: Yoshino(31歳) 50分/カラー
育ての父親を離婚で失った転校生と、死んだ妹への思いから抜けられない同級生。「特殊能力」で結ばれた二人が、交流を重ねる中でそれぞれの心的外傷から解放されていくまでを、確かなドラマ構築の中で描く佳作。



『反抗』

監督: 堀内博志(35歳) 52分/カラー
全てが不可解な記号で構築された世界の中で、無表情の少女は理不尽なゲームの主人公となり、やがて生への渴望と鼓動を肉体に宿し始める。予定不調和な出来事を躍動感ある映画に見華させている監督の眼が端々に冴え渡る。



©若松プロダクション

『第32回PFF前夜祭特別上映』 7月15日[木]18:45-

第60回ベルリン国際映画祭
主演女優賞(銀熊賞)受賞

『キャタピラー』

2010年/87分/35mm/カラー ※R15指定作品

中国戦線から“軍神”として帰還してきた夫久蔵を迎えた妻シゲ子。つましい農村で軍神の妻として生きるシゲ子の焦燥と第二次世界大戦のおわりを重ね、若松孝二が21世紀に問う戦争の姿。世界が騒然とした今年一番の話題作を特別先行上映

舞台挨拶
若松孝二監督
主演
寺島しのぶ
大西信満

1977年から続くPFFのメインプログラム「PFFアワード2010」。
 自分のお金で、自分の頭と体で、自分の意思で、自主的につくられた映画だけのためのコンペティションです。
 この16作品は会場で見知らぬ観客と出会い、歩き始めます。
 “今”を最もビビッドに映し出す自主映画の魅力を伝えるPFFは、
 新しい試みに高い興味を持つ最初の観客と作品が出会う場所です。
 あきらかに才能は自主映画に宿る時代。是非観客として、未知の体験をしてください。

C 7月17日 [土] 16:15 - / 28日 [水] 16:00 -

『アンナと二階の部屋』

監督: 田崎恵美 (22歳) 15分/カラー
 恋人ありの男と付き合うこと以外、損得の判断でしか日々を生きていない女。いいかげんでズルくて、でもひどく現代的なヤドカリ娘を15分という短い尺の中で軽やかに泳がせる。生きた人間描写が楽しく弾む好演出作。

『世界グッドモーニング!!』

監督: 廣原 暁 (23歳) 81分/カラー
 少年が大人になる為の、静かなるロードムービー。見知らぬ男の鞆の中身を手掛かりに、“見知らぬ家族”を探す旅。閉塞する居場所を抜け、青春の輝きが見出す世界に、「おはよう」と叫ぼう。この空は世界につながっている。

D 7月17日 [土] 18:45 - / 28日 [水] 13:15 -

『硬い恋人』

監督: 森岡 龍 (21歳) 52分/カラー
 愛情となれ合いの間に揺れるオギーと僕。同じマンションに住むプリン好きの女の子と知り合ったことで、二人の関係が微妙に変化する…。スモッグでかすむ町に暮らす若者たちの、煩惱にまみれた下りなくも愛おしい日々。

『21世紀』

監督: 山内崇寛 (30歳) 56分/カラー
 劇映画における物語の構造や文体がここまで自由であり得たことのバロウズの証明。霊的視点が見つめる現代の欠落した家族の肖像が、詩や音楽の様に大胆に構築され、意識下に狂想のドラマを紡いでいく。優しさにつつまれる奇作。



G 7月18日 [日] 16:15 - / 27日 [火] 13:15 -

『くらげくん』

監督: 片岡 翔 (27歳) 14分/カラー
 乙女チックなくらげくんはガキ大将タイプの虎太郎が大好き。引越して離れ離れになってしまう2人は電車に乗って旅へ出た。少年の一途な想いは届くのか? 永遠のノスタルジーと現代が同居する新世代の子供映画が誕生!

『白屋のイカロス』

監督: 阿部綾織 (24歳) / 高橋那月 (21歳) 83分/カラー
 上京後、夜の街でひっそり営業する雀荘で働き始めたハルハは、元カメラマンで視覚障害の経営者マグチや脚の悪い同僚アランと出会うが…。誰もが抱える“欠損”を人との絆で埋めてゆくことの必要と儂さを深遠に描いた長編傑作。

『あなたの家』

監督: 山川公平 (27歳) 44分/カラー
 木造モルタルアパートで暮らす老夫婦が、老老介護生活に突入。介護と貧困に疲弊する妻キミコの、大阪のおばちゃんならではの派手好みな服と生活臭のミスマッチが不思議な魅力を押しだし、逆境のど根性を光らせる。

『TIGER』

監督: ジェームズ・マクフェイ (25歳) 57分/カラー
 外国人モデルカップルが東京という都市で漂う様に生きることの孤独。そこから抜けるには東京を出、自然と格闘するしかない。手にするのは雪山の冷気ばかりだとしても。抱える虚無を破裂させる瞬間、映画も息を吹き返す。



※ 監督の年齢は応募時のものです。

Special Program実現。大サービス企画奮発しました。会場: 東京国立近代美術館フィルムセンター・小ホール(B1)

ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.3

～日本インディペンデント映画史シリーズ③～

- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 第1回 『イみてーしょん、インテリあ。』
監督・脚本: 風間志織 | 第6回 『二十才の微熱』
監督・脚本: 橋口亮輔 | 第11回 『KKA: 一和』
監督: 川合 晃 | 第16回 『14歳』
監督: 廣末哲夫 脚本: 高橋 泉 |
| 第2回 『はいかぶり姫物語』
監督・原案: 斎藤久志 | 第7回 『裸足のピクニック』
監督: 矢口史靖 | 第12回 『BORDER LINE』
監督: 李 相日 | 第17回 『パークアンドラブホテル』
監督・脚本: 熊坂 出 |
| 第3回 『バス』
監督・脚本: 小松隆志 | 第8回 『この窓は君のもの』
監督・脚本: 古厩智之 | 第13回 『バーバー吉野』
監督・脚本: 荻上直子 | 第18回 『不灯港』
監督・脚本: 内藤隆嗣 |
| 第4回 『自転車吐息』
監督: 園 子温 | 第9回 『タイムレス メロディ』
監督・脚本: 奥原浩志 | 第14回 『運命じゃない人』
監督・脚本: 内田けんじ | |
| 第5回 『大いなる学生』
監督: 小池 隆 | 第10回 『空の穴』
監督: 熊切和嘉 | 第15回 『水の花』
監督・脚本: 木下雄介 | |

PFFスカラシップ昨年までの18作品を一挙上映!

公開中の最新作『川の底からこんにちは』もあわせれば、もう完璧!

前売券: 800円 [Pコード: 556-571]

当日券 一般: 1,000円

大学・高校生・シニア (65歳以上): 900円

小・中学生: 600円

障害者・障害者付添者: 500円

キャンパスメンバーズ: 750円

6月12日 [土] 発売開始

※前売券はチケットぴあでのみ発売です。
 フィルムセンター窓口での前売券販売はございません。
 主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター ぴあ株式会社

CARTE BLANCHE カルト ブランシュ

～期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画～

最前線で活躍中の映画人 & 文化人がフィルムセンターの

日本映画コレクションから1本を上映。自ら解説して、映画の楽しさを爆発させる!

第1回 7月16日 [金] 14:30 -

～僕たちをときめかすエンターテインメント～

『独立愚連隊西へ』岡本喜八監督作品 1960/107分/35mm/白黒

石井裕也監督(『川の底からこんにちは』他)と

真利子哲也監督(『イエローキッド』他)が対談解説

※第3回も予定中。詳細は <http://www.cartelblanche-movie.com/>

第2回 7月21日 [水] 18:00 -

～忘れたい日本のファンタジー～

『愛の亡霊』大島渚監督作品 1978/107分/35mm/カラー

美術監督・種田陽平(『キル・ビルvol.1』『空気人形』他)がセレクト & 解説

聞き手: 船曳真珠監督(『携帯彼氏』他)

前売券: 800円 [Pコード: 556-572]

当日券 一般・シニア (65歳以上): 1,000円

大学・高校生・小・中学生・障害者・障害者付添者: 500円

6月12日 [土] 発売開始

主催: 東京国立近代美術館フィルムセンター、
 エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社、ぴあ株式会社
 企画協力: 株式会社REALWAVE

招待作品部門

5つの特集で構成する盛りだくさんの本年の招待作品部門です。全て、映画をつくること、観ることを一層面白くさせる特集です。

日本映画新作プレミア上映

これから公開される日本映画をひとあし先に御披露します。

7月16日 [金] 18:45-



オープニング作品
荻上直子監督
来場予定

©「トイレット」フィルムパートナーズ

『トイレット』

109分/35mm/カラー [10年8/28全国公開]

監督・脚本:荻上直子 出演:アレックス・ハウス、
タチアナ・マズラニ、デイヴィッド・レンドル、
もたいまさこ 配給:ショウゲート/スールキートス

『バーバー吉野』『かもめ食堂』『めがね』に続き、荻上監督がミュージス・もたいまさこを迎え、カナダ・トロントで撮影されたハートウォーミングな新しい家族の物語。言葉の通じないばあちゃんと3名の孫たちの輝ける共同生活。

7月21日 [水] 18:45-



鈴木卓爾監督
来場予定

©水木プロダクション/「ゲゲゲの女房」制作委員会

『ゲゲゲの女房』

119分/35mm/カラー [10年秋公開予定]

監督:鈴木卓爾 出演:吹石一恵、宮藤官九郎、
坂井真紀、平岩紙 配給:ファンタムフィルム

鈴木卓爾監督が長編デビュー作『私は猫ストーリー』に続き、たむらまさき撮影で、漫画家水木しげるの妻武良布枝による同名の原作本を映画化。売れない漫画家との極貧生活が軽やかに描かれる。音楽は鈴木慶一。

7月23日 [金] 12:15-



瀬々敬久監督
窪岡萌希
長谷川朝晴
忍成修吾、山崎ハコ
来場予定

©2010ヘヴンズプロジェクト

『ヘヴンズ ストーリー』

278分/35mm/カラー [10年10月公開]

監督:瀬々敬久 出演:窪岡萌希、長谷川朝晴、
忍成修吾、村上 淳、山崎ハコ 配給:ムヴィオラ

“家族を殺された幼い娘”と“妻子を殺された若い夫”を軸に、複数の殺人、被害者と加害者、復讐と贖罪、生と死を描く。一貫して実際の事件に触発されてきた瀬々監督版『罪と罰』といえる全9話、278分の野心作。

若松孝二特集

— こわくない!! はじめての若松体験

およそ半世紀にわたり最も刺激的なインディペンデント監督であり続ける若松孝二。“怖い”というイメージがひとり歩きしているけれど、それは大きな間違いです。ただ、やりたいことが、明確なだけ。是非この機会に楽しい初体験を!

※前夜祭にて最新作『キャタピラー』を特別上映 協力:若松プロダクション

わかまつこうじ

1936年宮城県生まれ。高校を中退し上京後様々な仕事に従事。テレビや映画の優秀な制作、助監督として活躍した後、ピンク映画の監督を機に20代で自らの制作会社「若松プロダクション」を設立。100本を超える、ピンク映画というジャンルを使っている冒険的で実験的で、革命への情熱に溢れ、そして時代の空気に敏感な映画群が各界の注目を集める。同時に、集まってきた才能たちを次々と抜擢し、脚本家、監督としてのチャンスをつくった。1963年ピンク映画「壁の中の秘事」がベルリン国際映画祭のコンペティションに選ばれ「国辱映画」と糾弾されたときから海外でも名前が広まり、『愛のコーリダ』(大島渚監督'76)プロデュースにより、更に高名となる。80年代以降は一般映画を監督。21世紀に入ってから、戦争や歴史をこれからの世代に伝える使命感を感じると語り、『実録・連合赤軍 あさま山荘への道程(みち)』('08年)『キャタピラー』('10年)と骨太な自主映画を発表する。

*印の作品は公開当時
成人指定を受けた作品です。

7月16日 [金] 14:45-



『腹貸し女』*

1968年/69分/35mm/白黒(パートカラー)
出演:門麻実、古沢健、伊地知幸子、津崎公平
資産家の妻の姉は、妹と共に人工受精を受け財産を狙う。しかし妹は新聞配達少年を愛していた。ジャックスがフーテン役を嬉々として演じる。

7月16日 [金] 16:45-



『性の放浪』*

1967年/78分/35mm/白黒(パートカラー)
出演:山谷初男、新久美子、水城リカ、山崎敏子
恐妻家のサラリーマンが、呑みすぎて帰宅しそびれたことから放浪の旅に出る。当時話題となった今村昌平『人間蒸発』のパロディか?(未ソフト化)

7月20日 [火] 14:45-



『聖少女拷問』*

1980年/64分/35mm/カラー
出演:島明美、水紀ゆき子、下元史朗、宮田諭
第二次世界大戦中の日本を舞台にある女性の四季を追う、という、最新作『キャタピラー』に通じる作品。タイトルから想像する怖さはない。(未ソフト化)

ジョン・カサヴェテス特集

インディペンデント映画の父・ジョン・カサヴェテス特集。
今回は即興演出が世界を驚かせたデビュー作、
『アメリカの影』を含む3作品を紹介。
映画を志す者に必見の作品群と言えます。

配給:ザジフィルムズ

ジョン・カサヴェテス

「インディペンデント映画の父」ジョン・カサヴェテスは、俳優としての収入を自己の映画制作に注ぎ込み、妻であり盟友である女優ジーナ・ローランズと共に、誰もみたことのない映画をつくり続け、1989年に59歳で亡くなった。普遍性と痛み、緊張感と実験性に溢れる今も全く古さを感じさせないその作品は、誰も真似の出来ない孤高のポジションを保ち続ける。息子のニック、娘のアレグザンドラ、ゾエも現在映画監督として活躍中。

7月21日 [水] 14:00-



©1958 Gena Enterprises

『アメリカの影』 SHADOWS

1959年/アメリカ/82分/白黒(デジタル上映)
出演: レリア・ゴルドーニ、ヒュー・ハード

登場人物は全て演じる俳優自身の名前を持ち、簡単な設定の下即興で演じられる、もともと俳優のワークショップから始まったカサヴェテスの処女作。ミュージシャンの兄とそのマネージャーの友情、妹と彼女の恋の行方が、自在に動くカメラに切なく刻まれる。

7月21日 [水] 16:00-



©1968 John Cassavetes

『フェイス』 FACES

1968年/アメリカ/130分/白黒(デジタル上映)
出演: ジョン・マーレイ、ジーナ・ローランズ

自宅とローランズの母のアパートをロケセットとして使い、スタッフ&キャストの仕事が終わった夕方から深夜にかけて撮影した、もう若くない夫婦を巡る二夜の物語。したいことを、言いたいことを言うことの困難さと美しさが、夜の闇と共にひりひりと描かれる。

7月22日 [木] 15:30-



©1974 Faces International Films, Inc.

『こわれゆく女』 A WOMAN UNDER THE INFLUENCE

1974年/アメリカ/147分/カラー(デジタル上映)
出演: ジーナ・ローランズ、ピーター・フォーク

自宅を抵当に入れて制作資金をつくったことや、大ヒットしてアカデミー賞の監督賞と主演女優賞にノミネートされたことでも有名な作品。イタリア系労働者一家の妻が精神を病み、入院し、半年後に戻ってくるまでの家族の夫婦の葛藤が生々しく胸に迫る。

7月20日 [火] 16:30-



『血は太陽よりも赤い』*

1966年/80分/35mm/白黒
出演: 大塚和彦、若原珠美、空間雪男、寺山修司が絶賛したことで知られる自伝的青春劇。受験を控えた男子高校生が様々な社会的不正に憤り、全ての人々への復讐を決意する。(未ソフト化)

7月24日 [土] 11:30-



『逆情』* ニュープリント

1964年/71分/35mm/白黒
出演: 寺島幹夫、扇町京子、公教子、手島昭彦
初期の話題作。ドライブに出かけた夫婦と子供を次々と襲う苦難。彼等はそれを乗り切れるのか?本企画のためにニュープリントを作成。(未ソフト化)

7月24日 [土] 13:30-



『新宿マリア』* ニュープリント

1975年/68分/35mm/カラー ※公開時のタイトルは「売春婦マリア」
新宿で耳にした少女の唄にインスパイアされて生まれたというある売春婦の物語をニュープリントで上映。主演の中島葵は女優森雅之の娘。(未ソフト化)

『My Best Wakamatsu』

若松監督の指名した映画監督たちが若松映画のMy Best Oneを選び、その創作の源泉を追及する特別プログラム

7月20日 [火] 18:45-



瀬々敬久
監督・選

若松孝二
瀬々敬久
対談あり

『性賊／セックスジャック』*

1970年/70分/35mm/白黒(パートカラー)
出演: 秋山未知汚(道男)、笹原茂朱、小水一男
指名手配された活動家たちを匿う工員の青年。ノンポリを装う青年の外出した夜に必ず起こるテロに気付きはじめた彼等は……。

7月23日 [金] 18:45-



阪本順治
監督・選

若松孝二
阪本順治
対談あり

『寝盗られ宗介』

1992年/106分/35mm/カラー
出演: 原田芳雄、藤谷美和子、久我陽子、寛利夫
つかこうへいのヒット戯曲を映画化。旅回りの劇団を舞台に、多情な妻に翻弄される座長の宗介を原田芳雄が見事に演じる。

7月25日 [日] 17:30-



石井岳龍
監督・選

若松孝二
石井岳龍
対談あり

『胎児が密猟する時』*

1966年/72分/35mm/白黒
出演: 志摩みはる、山谷初男
若松映画人気ベスト3常連の実験作。がらんとしたアパートの一室と、ベッドと、一組の男女だけで構成されながら爆発するイメージ!

イ・サンウ特集

『韓国のファズビンダー』『韓国のトッド・ソロズ』などと紹介されるイ・サンウ監督を特集します。

既に世界で話題となり日本の映画祭でも紹介された

『トロピカル・マニラ』『ママは娼婦』の2長編と、最新作で、制作、監督、主演を務めたオムニバス映画『オール・アバウト・マイ・ファーザー』の3作品。

イ・サンウ

'71年ソウル生まれ。高校時代から映画制作を始め、カリフォルニア大学バークレイ校で映像を学ぶ。その後、アメリカで韓国映画祭や学生映画祭に携わる。韓国に戻り、延世大学大学院で更にドラマを学びながら、講師であったジョン・ジョストとの短編映画製作や、キム・キドクの助監督などを経験しながら、自主映画を制作。

7月22日 [木] 13:30-



『トロピカル・マニラ』 Tropical Manila

2008年/韓国・フィリピン合作/89分/HD/カラー
出演: ジェラルド・デヴェラ、キム・スナム

犯罪からの逃亡でフィリピンに来た韓国人の父とフィリピン人の母のもとに生まれた15歳のフィリップは、自らのアイデンティティに悩む。フィリピンのプロデューサーとマニラで撮り上げた長編デビュー作。

協力:大阪プラネット+1

7月24日 [土] 15:15-



イ・サンウ監督
来場予定

『ママは娼婦』 Mother is a Whore

2009年/韓国/95分/HD/カラー
出演: イ・サンウ、イ・ユンレ、ファン・ブンタク

エイズに冒されたサンウは、母に客を斡旋し生活する。しかし母は息子のためにそれを行う。二人を捨てた父は新たな家庭を持ちサンウ母子を蔑視するが、実は…。母への愛と感謝を捧げる強烈な映画詩。

協力:京都国際学生映画祭

7月24日 [土] 18:00-



プレミア上映
イ・サンウ監督
来場予定

『オール・アバウト・マイ・ファーザー』

2010年/韓国/88分/HD/カラー All About My Father
出演: イ・サンウ

完成したばかりのオムニバス映画を世界初上映。イ・サンウはプロデューサーと主演を全作務め、1作品を監督。他2作品は学生に監督を委ねている。ゲイ・サブジェクトが漂う父と子の物語集。

短編スペシャル

長編映画と短編映画は、あきらかに違うはずですが、では短編映画とは何だろう? どう定義すればいいのだろう? その作品はどのような展開方法があるのだろう?などの疑問に答えられるプログラムを目指します。

7月22日 [木] 18:45- ~長編映画監督にとっての短編映画~



「失われた古代文明」

『ワンピース (2010)』

出演: 田中要次、森下能幸、塩野谷恵子、鈴木卓爾、猫田直、金澤くれは、クリスドゥ・モンタルト 他

1994年から続くワンシーン・ワンカット・フィックスというルールを用いて進化し続ける短編プロジェクト『ワンピース』。創始者である矢口史靖(『ウォーターボーイズ』『スウィングガールズ』『ハッピーフライト』)&鈴木卓爾(『私は猫ストーカー』『ゲゲゲの女房』)がそれぞれ3作品計6作品をPFFの為に撮り直し初上映し、短編の面白さを語る。



「豚に真珠ハイパー」

プレミア上映
矢口史靖監督
鈴木卓爾監督
来場予定



「ndjc:若手映画作家育成プロジェクト」
製作実地研修完成作品

『きみは僕の未来』

2010年/30分/35mm/カラー
出演: 私市夢太、斉藤陽一郎、石村みか

『新しい予感』'04、『Catchball with ニコル』'06でPFFアワードに入選した浅野監督の短編映画。母子家庭のいじめられっ子アキラの恋が生んだ嘘が、家族を巻き込む大騒動に…。

7月25日 [日] 11:00-



山村浩二監督
来場

©Yamamura Animation

「頭山」「Fig」「こどもの形而上学」他

山村浩二講座

~短編アニメーションであること~

世界5大アニメーション映画祭全てでグランプリ受賞という前人未踏の記録を持つアニメーション映画の巨匠による講座。自身の作品のみならず、世界の短編アニメーション作品も紹介しながら、アニメーションの現在と本質を語る。

7月25日 [日] 14:15-



平林勇監督
来場

「shikasha」「aramaki」「BABIN」他

平林 勇講座

~国際映画祭の短編コンペへの道のり~

最新作『shikasha』がカンヌ国際映画祭、前作『aramaki』がベルリン国際映画祭に招待など、これまで製作した短編全てが海外で上映されている平林監督が、自作の上映を通して語る国際映画祭の短編コンペへの実践的講座。

PFFスカラシップ

PFFパートナーズ(びあ、TBS、IMAGICA、エイベックス・エンタテインメント、USEN) / リトルモア 提携作品
特別協賛:コダック株式会社 助成:文化芸術振興費補助金

1984年に始まった、PFFの新人監督育成システム「PFFスカラシップ」。
コンペティション部門「PFFアワード」の入賞者によるオリジナル企画を、
PFFがトータルプロデュースした最新作を御披露致します。
本年は2008年に『症例X』にて審査員特別賞を受賞した吉田光希監督の『家族X』です。

7月29日[木] 19:00-

第20回
PFFスカラシップ作品

『家族X』

素敵なマイホームがあることで幸せになれると信じていた橋本路子の家族は、失職の危機にある夫健一と、就職浪人の息子宏明。いつのまにか食卓を囲むことのなくなったダイニングで料理を続ける路子自身も、少しづつ壊れていくが…。前作『症例X』で、老母の介護に追い詰められそうな息子の暮らしを映像の力で紡ぐ見事な腕をみせた吉田監督が、崩壊の予兆のある家族を優しく静かに見つめ、必ず宿る光を描き出す。



2010年/100分(予定)/35ミリ/カラー
監督・脚本:吉田光希
出演:南 果歩、田口トモロヲ、郭 智博

入場料一覽

お得で安心な前売券のご購入をおすすめします。前売券はチケットぴあでのみ発売です。
フィルムセンター窓口での前売券販売はございません。

前夜祭

若松孝二監督作品『キャタピラー』 [Pコード: 556-562]

前売券: 1,300円 当日券 一般: 1,500円 大学・高校生・シニア (65歳以上): 1,400円
障害者・障害者付添者: 500円 キャンパスメンバーズ: 1,250円

コンペティション部門

「PFFアワード2010」専用チケット [Pコード: 556-563]

前売券: 1,000円 当日券 一般: 1,200円 大学・高校生・シニア (65歳以上): 1,100円
小・中学生: 800円 障害者・障害者付添者: 500円 キャンパスメンバーズ: 950円

「PFFアワード2010」

表彰式&グランプリ 上映チケット [Pコード: 556-564]

前売券: 1,000円 当日券 一般: 1,200円 大学・高校生・シニア (65歳以上): 1,100円
小・中学生: 800円 障害者・障害者付添者: 500円 キャンパスメンバーズ: 950円

第20回PFFスカラシップ作品

『家族X』 [Pコード: 556-565]

前売券: 1,300円 当日券 一般: 1,500円 大学・高校生・シニア (65歳以上): 1,400円
小・中学生: 1,100円 障害者・障害者付添者: 500円 キャンパスメンバーズ: 1,250円

招待作品部門 [Pコード: 556-566]

◇日本映画新作プレミア上映 オープニング作品

荻上直子監督作品『トイレット』

前売券: 1,500円 当日券 一般: 1,800円 大学・高校生・シニア (65歳以上): 1,600円
小・中学生: 1,100円 障害者・障害者付添者: 700円
キャンパスメンバーズ: 1,550円(教職員)、1,450円(学生)

◇日本映画新作プレミア上映

鈴木卓爾監督作品『ゲゲゲの女房』

前売券: 1,500円 当日券 一般: 1,700円 大学・高校生・シニア (65歳以上): 1,600円
小・中学生: 1,100円 障害者・障害者付添者: 700円 キャンパスメンバーズ: 1,450円

◇日本映画新作プレミア上映

瀬々敬久監督作品『ヘヴンズ ストーリー』

前売券: 2,000円 当日券 一般: 2,200円 大学・高校生・シニア (65歳以上): 2,100円
小・中学生: 1,800円 障害者・障害者付添者: 1,400円 キャンパスメンバーズ: 1,950円

若松孝二特集 / ジョン・カサヴェテス特集
イ・サンウ特集 / 短編スペシャル

前売券: 1,300円 当日券 一般: 1,500円 大学・高校生・シニア (65歳以上): 1,400円
小・中学生: 1,100円 障害者・障害者付添者: 500円 キャンパスメンバーズ: 1,250円

6月12日[土]
発売開始

全席指定制
定員310名

【前売券の購入方法】 ※フィルムセンター窓口での販売はございません

- お近くのチケットぴあのお店 (店舗の検索はこちら <http://pia.jp/shoplist/>)
で直接購入
- サークルK・サンクスで直接購入
- インターネット (<http://t.pia.jp/cinema/>) にて購入
- チケットぴあにて電話予約後 (チケットぴあ音声認識予約: 0570-02-9999)
ぴあのお店、サークルK・サンクス、セブン-イレブンで受け取り

【プレリザーブ(インターネット先行抽選販売)について】

「前夜祭上映」「日本映画新作プレミア上映」のチケットのみ

受付開始: 6月5日[土] 11:00

受付終了: 6月10日[木] 11:00

抽選結果: 6月11日[金]

プレリザーブについての詳細はチケットぴあホームページをご参照ください。
(<http://t.pia.jp/cinema/>)

【指定席について】

- 全席指定です。
- 「前方」「中央」「後方」のいずれかを選んでご購入いただけますが、
ご希望に添えない場合がございます。
- 上映開始後はお手持ちのチケットの席にご案内できない場合がございます。
お時間に余裕を持ってお越しください。

【注意事項】

- 前売券は一般のみ。前売券の電話予約は各上映日の5日前まで、
直接購入は各上映日の2日前までとなります。
- 前売券の払い戻し、交換、再発行はいたしません。

【当日券について】

- 当日券は、各回1名につき1枚販売いたします。
- 当日券(当日、当該枠のみ有効)は、会場受付にて
各回上映30分前から開映時刻まで販売します。
- 開映後の当日券の販売はいたしません(前売券をお持ちの方に限り途中入場可)。
- 当日券の有無は、各上映の前日にフィルムセンターのホームページ
(<http://www.momat.go.jp/>) で確認することができます。
- 学生、シニア (65歳以上)、障害者の方は証明できるものをご提示ください。
- 障害者付添者は原則1名まで障害者と同じ料金でご入場いただけます。
- 雑誌「ぴあ」最新号または「ぴあカード」のご提示により、
一般の当日料金が割引になります。
- 国立美術館キャンパスメンバーズの方は、学生証・職員証のご提示により
当日料金が割引になります。

Time Table

お問い合わせ: PFF事務局 03-3265-1425 <http://pff.jp/>
 ※PFFアワード監督の来場予定およびゲスト来場の追加情報は随時HPで発表します
 ※やむを得ない事情により、プログラムおよび来場ゲストが変更になる場合がございます。
 ※全プログラムとも、録音・録音機器、及びPCの会場への持ち込みは禁られています。

タイムテーブル ★…ゲスト来場予定。開場は開演時間の15分前を予定。

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
7.15 [木]									18:45 前夜祭 『キャタピラー』★		
7.16 [金]					14:45 若松孝二特集 『腹貸し女』		16:45 若松孝二特集 『性の放浪』		18:45 日本映画新作プレミア上映 オープニング作品 『トイレット』★		
7.17 [土]	11:00 PFFアワードA★ 『ポスト・ガール』 『賽ヲナゲロ』			13:45 PFFアワードB★ 『イチゴジャム』 『真っ赤な嘘』		16:15 PFFアワードC★ 『アンナと二階の部屋』 『世界グッドモーニング!!』		18:45 PFFアワードD★ 『硬い恋人』 『21世紀』			
7.18 [日]	11:00 PFFアワードE★ 『キミ/ハミング/コーヒー』 『青春墓場-明日と一緒に歩くのだ-』			13:30 PFFアワードF★ 『雲と空』 『反抗』		16:15 PFFアワードG★ 『くらげくん』 『白昼のイカロス』		18:45 PFFアワードH★ 『あんたの家』 『TIGER』			
7.19 [月]	休 館										
7.20 [火]					14:45 若松孝二特集 『聖少女拷問』		16:30 若松孝二特集 『血は太陽よりも赤い』		18:45 My Best Wakamatsu 瀬々敬久選 『性賊/セックスジャック』★		
7.21 [水]					14:00 カサヴェテス特集 『アメリカの影』		16:00 カサヴェテス特集 『フェイス』		18:45 日本映画新作プレミア上映 『ゲゲゲの女房』★		
7.22 [木]					13:30 イ・サンウ特集 『トロピカル・マニラ』		15:30 カサヴェテス特集 『こわれゆく女』		18:45 短編スペシャル ～長編映画監督にとつての短編映画～ 『きみは僕の未来』+『ワンピース』★		
7.23 [金]					12:15 日本映画新作プレミア上映 『ヘヴンズ ストーリー』★				18:45 My Best Wakamatsu 阪本順治選 『寝盗られ宗介』★		
7.24 [土]		11:30 若松孝二特集 『逆情』		13:30 若松孝二特集 『新宿マリア』		15:15 イ・サンウ特集 『ママは娼婦』★		18:00 イ・サンウ特集 『オール・アバウト・マイ・ファーザー』★			
7.25 [日]	11:00 短編スペシャル ～短編アニメーションであること～ 山村浩二講座★				14:15 短編スペシャル ～国際映画祭の短編コンペへの道のり～ 平林勇講座★			17:30 My Best Wakamatsu 石井岳龍(聡互)選 『胎児が密猟する時』★			
7.26 [月]	休 館										
7.27 [火]					13:15 PFFアワードG★ 『くらげくん』 『白昼のイカロス』		16:00 PFFアワードH★ 『あんたの家』 『TIGER』		18:45 PFFアワードA★ 『ポスト・ガール』 『賽ヲナゲロ』		
7.28 [水]					13:15 PFFアワードD★ 『硬い恋人』 『21世紀』		16:00 PFFアワードC★ 『アンナと二階の部屋』 『世界グッドモーニング!!』		18:45 PFFアワードE★ 『キミ/ハミング/コーヒー』 『青春墓場-明日と一緒に歩くのだ-』		
7.29 [木]					13:15 PFFアワードF★ 『雲と空』 『反抗』		16:00 PFFアワードB★ 『イチゴジャム』 『真っ赤な嘘』		19:00 第20回 PFFスカラシップ作品 『家族X』★		
7.30 [金]							16:30 PFFアワード2010表彰式 グランプリ作品上映				

Special Program ぴあフィルムフェスティバルの軌跡 vol.3 ～日本インディペンデント映画史シリーズ③～ / CARTE BLANCHE ～期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画～

7.1 [木]	14:00 『イマてーしん、インテリア』 『大いなる学生』	18:00 『はいかぶり姫物語』	7.9 [金]	14:00 『14歳』	18:00 『パークアンドラホテル』	7.17 [土]	12:00 『バーバー吉野』	15:00 『IKKA:一和』
7.2 [金]	14:00 『バス』	18:00 『自転車吐息』	7.10 [土]	12:00 『不灯港』	15:00 『イマてーしん、インテリア』 『大いなる学生』	7.18 [日]	12:00 『パークアンドラホテル』	15:00 『BORDER LINE』
7.3 [土]	12:00 『この窓は君のもの』	15:00 『タイムレス メロディ』	7.11 [日]	12:00 『自転車吐息』	15:00 『はいかぶり姫物語』	7.19 [月]	休 館	
7.4 [日]	12:00 『二十才の微熱』	15:00 『裸足のピクニック』	7.12 [月]	休 館		7.20 [火]	14:00 『不灯港』	18:00 『運命じゃない人』
7.5 [月]	休 館		7.13 [火]	14:00 『タイムレス メロディ』	18:00 『バス』	7.21 [水]	第2回 CARTE BLANCHE	
7.6 [火]	14:00 『IKKA:一和』	18:00 『空の穴』	7.14 [水]	14:00 『水の花』	18:00 『この窓は君のもの』	7.22 [木]	14:00 『裸足のピクニック』	18:00 『14歳』
7.7 [水]	14:00 『BORDER LINE』	18:00 『バーバー吉野』	7.15 [木]	14:00 『空の穴』	18:00 『二十才の微熱』			
7.8 [木]	14:00 『運命じゃない人』	18:00 『水の花』	7.16 [金]	14:30 第1回 CARTE BLANCHE				

〈会場へのアクセス〉 東京国立近代美術館 フィルムセンター

東京都中央区京橋3-7-6

- 東京メトロ銀座線「京橋駅」1番出口より
昭和通り方向へ徒歩1分
- 都営地下鉄浅草線「宝町駅」A4出口より
中央通り方向へ徒歩1分
- 東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」
7番出口より徒歩5分
- JR「東京駅」八重洲南口より徒歩10分

